

## SDGs 市民社会ネットワーク

〒102-0072 東京都千代田区  
飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 604  
電話：03-5357-1773  
FAX:03-5357-1774  
e-mail:office@sdgs-japan.net



JAPAN CIVIL SOCIETY  
NETWORK ON  
**SDGs**  
SDGs 市民社会ネットワーク

## Japan Civil Society Network on SDGs (SDGs Japan)

#604 Sankyo Bldg, 1-7-10 Iidabashi,  
Chuo-ku, Tokyo 102-0072 Japan  
TEL:81-3-5357-1773  
FAX:81-3-5357-1774  
e-mail:office@sdgs-japan.net

**SDGs 市民社会ネットワークから、皆様へパブリック・コメントのお願い**  
2030年の日本と世界の未来を、持続可能にする「SDGs(持続可能な開発目標)」達成のため、

# 日本政府「SDGs 実施指針」改定に私たちの意見を届けよう！

## 「SDGs 実施指針」改定に向けたパブコメ・ガイド 2019 「基本編」 < 目次 >

- (p.01) 日本政府 SDGs 実施指針(改定版)についての意見募集(パブリック・コメント)始まる！
- (p.02) パブリック・コメントはどうやって送るの？
- (p.04) パブリック・コメントはどんな意見を書いて、どうまとめればいいのか？
- (別添) 市民社会からの「SDGs 実施指針」改定への意見(案)」

## 【日本政府 SDGs 実施指針(改定版)についての意見募集始まる！】

日本政府が制定する SDGs 実施指針(改定版)への意見募集(パブリック・コメント)が始まりました。日本と世界を持続可能にする「SDGs(持続可能な開発目標)」達成へ、私たち市民の意見を反映するまたとない機会です！

<皆さんにお願いする、背景と理由>

- 2015年9月の国連サミットで採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で掲げられた17のゴール、「持続可能な開発目標(SDGs)」は、2030年の世界を持続可能にする、**すべての人に適用される行動目標**です。
- 日本も2016年に総理を本部長に「SDGs推進本部」を設置、「SDGs実施指針」を策定し、2018、2019年に「SDGsアクションプラン」を発表しました。**今後のアクションプランに大きく影響するのが今回の実施指針の改定**です。
- SDGsの推進は採択から4年を経て、これまでの「SDGsを浸透させ、認知度を向上させ、身近な取組を始めて、具体的な取組・行動につなげる」という第一段階から、**具体的な成果を出す第二段階に入る必要があります**。
- 過去4年間の取組を振り返り、日本の取組の特長・長所と克服すべき課題を明確にして、今後のSDGs推進の「あり方」を検討していくために、**パブリック・コメントとして私たちの意見を政府に伝えることが重要**です。

<私たちの未来と「持続可能な開発目標(SDGs)」とは>

様々な面で行き詰まり、危機的な状態になりつつある現代の世界と日本。「持続可能な環境、経済、社会」に向け、あらゆる形態の貧困に終止符を打ち、不平等と闘い、気候変動に対処し、誰も置き去りにしない未来にする取組みが、「持続可能な開発目標(SDGs)」を含む「我々の世界を変革する＝持続可能な開発のための2030アジェンダ」です。

◎持続可能な開発目標(SDGs)の資料と現在の状況

- SDGsを含む「我々の世界を変革する＝持続可能な開発のための2030アジェンダ」全文和訳

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>

英語・国連公用語版 <https://sustainabledevelopment.un.org/post2015/transformingourworld>

- 持続可能な開発目標(SDGs)報告2019 日本語版

[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/sdgs\\_report/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_report/)

- 総理官邸「SDGs推進本部」 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/>

◎NGO/NPOなど市民社会、民間企業や関連団体、学術団体、国連機関などのSDGsの実施に向けた取組み

- 国連広報センター SDGs ページ <http://ow.ly/y3Bt305rf5Q>

- SDGs 市民社会ネットワーク <https://www.sdgs-japan.net/>

- OPEN 2030 Project <http://open2030project.com>

この「SDGs 実施指針 改定案」が、11月8日に日本政府「SDGs 推進本部」の幹事会で決定され、

**11月11日(月)から11月25日(金)を期限に「パブリック・コメント」が募集されています。**

「持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針 (令和元年11月8日 SDGs 推進本部幹事会決定) 」

◎実施指針骨子「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針改定案(骨子)」

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/pdf/jisshi\\_shishin\\_r011108.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/pdf/jisshi_shishin_r011108.pdf)

◎パブリック・コメント (意見公募) 「持続可能な開発目標(SDGs)実施指針(改定版)の骨子についての意見募集」

<https://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=350000169&Mode=0>

## 【パブリック・コメントはどうやって送るの？】

「パブリック・コメント」は、**重要な法案や指針など政策文書**に関して、**事前に案を公表して、国民・市民の意見を集める手続き**です。寄せられた意見は**取捨選択され、政策文書に反映**されます。今回の場合は、「SDGs 実施指針」に反映されることになります。実施指針は12月までに改定され、日本におけるSDGsの実施に向けた最も重要な文書として年内に策定されることになります。

今回の「パブリック・コメント」は、2030年の持続可能な世界と日本の基本となる政策文書である「SDGs 実施指針」に**一般の国民・市民の声を反映できる随一の機会**です。私たちの意見をパブリック・コメントで政府に届けましょう！

パブリック・コメントは「SDGs 推進本部」の事務局である外務省国際協力局地球規模課題総括課に、**(a)政府のウェブサイト (b)メール送信 (c)ファックス (d)郵送**の4つの方法から、あなたの好きな方法で送ることができます。

持続可能な開発目標(SDGs)実施指針(改訂版)の骨子についての意見募集サイト

<https://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=350000169&Mode=0>

の下部にある「SDGs 実施指針(改定版)の骨子についての意見募集」というリンクをクリックすると意見公募についての情報が記載されています。このPDFファイルにパブリック・コメントの提出方法が書いてあります。

### (a) 政府のウェブサイト(e-gov の意見提出フォーム)から送る方法

政府のウェブサイトから送る場合は上記ウェブサイトの下部にある「意見提出フォームへ」というリンクをクリックすると、フォーム画面の個人情報の入力欄があります。

差支えない範囲で入力した上、提出意見を記入して、「確認画面」で確認の上送信すれば、政府のSDGs 推進本部事務局(外務省国際協力局地球規模課題総括課)にあなたの意見が届きます。





## 【パブリック・コメントはどんな意見を書いて、どうまとめればいいのか？】

パブリック・コメントは、あなたが**政府の政策作りに参加する**ということ。だから、箇条書きや文章で、**あなた自身の意見を書いてよい**のです。どんな意見を書くか迷ったら、直接問題に関わっている NGO/NPO など、**市民社会の意見を参考**にしてみましょう。

### 1. あなた自身の意見を書いてよい

一番大事なことは、「**パブリック・コメントには、あなた自身の意見を書いてよい**」ということです。パブリック・コメントとは、日本政府の政策作り、国民・市民の一人として参加することですから、「SDGs 実施指針 改定案」の内容をしっかり読み、あなた自身の生活や活動を背景に、**SDGs が達成される 2030 年の持続可能な世界**をビジョンとして、「何ページの「○○○」という項目は、こうした方がよいのではないか。」「私は「反対、賛成」である、理由は「×××」である。」のように**具体的にまとめ、必要だと思う具体的な行動と、その行動による影響を、正直な気持ちと合わせて送ればよい**のです。下記のリンクから「SDGs 実施指針改定案(骨子)」がダウンロードできますので、じっくりとお読みください。

◎総理官邸 SDGs 推進本部「SDGs 実施指針改定案(骨子)」  
[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/pdf/jisshi\\_shishin\\_r011108.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/pdf/jisshi_shishin_r011108.pdf)

### 2. 様々な問題に直接かかっている NGO/NPO など市民社会の意見を参考に

「自分の意見を書いてよい」と言われても、ちょっと困ることもあるかもしれません。何を書けばいいのか、と迷った時に**参考になるのが、社会の様々な問題に直接かかっている NGO/NPO など、市民社会の意見**です。私たち「SDGs 市民社会ネットワーク」をはじめ、NGO/NPO や当事者団体、有識者のグループ、その他さまざまな団体が、すでに「SDGs 実施指針改定案(骨子)」への意見を表明しています。**SDGs ジャパンの意見は、本資料の「別添」で紹介しています**。実施指針全体についての市民社会の意見を紹介します。今後も各分野の意見を紹介し続けますので、ぜひ参考にして自分の意見を考え、書いてみてください。

※市民社会とは：このガイドでは、テーマや課題で活動する市民活動団体だけでなく、**地域をベースに活動するコミュニティ組織などを幅広く含めた意味で、「市民社会」という言葉を使っています。**

### 3. パブリック・コメントの書き方 =どうやってまとめるか=

本章の最初に書いたように、パブリック・コメントには、「SDGs 実施指針改定案」、「実施指針改定案 付表（具体的施策）」について、あなたの意見をそのまま書けばよいのです。しかし、そうは言っても、頭から書くのはなかなか難しいかもしれません。迷った場合は、以下を参考にしてみてください。

(1) 下書きを書いてみよう！

- ① まずは下書きを書こう：いきなり「E-gov」ウェブサイトの「意見提出フォーム」やファックス・郵送用書式に書き込むよりは、まずは下書きをしてみましょう。
- ② 時候の挨拶を書こう：「パブリック・コメント」はあなたから政府への手紙です。いきなりストレートに課題に入るよりは、短く時候の挨拶を書いてみると、書き出しの苦勞が少しは緩和されるのではないのでしょうか。
- ③ テーマを選ぼう：書くべきテーマがあらかじめ決まっている方は良いかと思いますが、迷っている方は、例えば、このペーパーの別添資料である市民社会からの「SDGs 実施指針」改定への意見（案）」を見ていただき、「全体課題」、または、今後更新される「個別課題」から一つを選んで、書いてみるとよいと思います。それ以外の実施指針内のテーマについては、④以降をしっかりやって書いてみてください。



- ④ 「骨子」「付表骨子」をしっかり読もう：テーマを選んだら、そのテーマに関する「骨子」および「付表骨子」の記述をしっかり読み、どう感じたかをメモしてみましょう。

首相官邸「SDGs 推進本部」 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/>

- ⑤ 自分の感じ方と、このペーパーで示されている考えを比べよう：メモしたあなたの感じ方と、このペーパーでの分析や提案などを見比べてみましょう。それでしっくりきたら、このペーパーで提示されている考え方を踏まえて、あなたの言葉で表現してもらえるとよいかと思います。逆に、このペーパーの分析や提案と意見が違ったら、あなたの意見の方を採用し、考え方を整理して、文章にしてみましょう。

(2) 送る前に見直しをしよう！出来れば誰かに読んでもらおう！

文章が書けると、ああ書けた、さあ送ってすっきり終わりにしよう、と思うものですが、送る前に必ず見直しをして、他人が読んでも誤解なく通用するわかりやすい表現になっているか確認しましょう。できれば、他の人に読んでもらい、文意が誤解なく伝わるかどうか、わかりやすいかどうかを確認した方が良いでしょう。

(3) 送る前に保存をして、後からでも読み返せるようにしよう！

パブリック・コメントは、政府 e-gov ウェブ、メール、また、ファクスや郵送でも送れます。しかし、原本を郵送してしまうと、自分が何を書いたのか後で読み返せなくなります。文書データは保存をし、郵送の場合はコピーを取るなどして、自分が何を書いたか、後で読み返せるようにしてから送信・郵送などをするようにしましょう。

パブリック・コメントは、これからの日本が、そして日本に住む私たちが、持続可能な世界に貢献する存在になるため、一人の国民・市民として、政府の政策形成に参加・協力する機会です。この参加と協力が国の政策形成に反映されることが、あなたや、あなた以外の誰かを助けになったり、社会全体を未来に向けて前進させる力になります。ぜひ、あなたも SDGs 実施指針にあなたの声を反映してみてください！

SDGs 市民社会ネットワーク「SDGs 実施指針改定に向けたパブリック・コメントのお願い」

◎編集：SDGs 市民社会ネットワーク (<https://www.sdg-japan.net/>)

◎連絡先：〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 604

電話：03-5357-1773 FAX:03-5357-1774 e-mail:office@sdgs-japan.net

※本ペーパー作成にあたり、多くの NGO/NPO 関係者の協力を頂きました。ここに心から感謝申し上げます

*We are transforming our world!*

【別添:参考】必要に応じて、パブコメ作成の参考にご活用ください。

2019年11月12日

SDGs 推進本部 本部長  
内閣総理大臣 安倍 晋三 様

(一社) SDGs 市民社会ネットワーク  
共同代表理事 大橋正明  
共同代表理事 三輪敦子

## 「SDGs 実施指針」改定への意見（案）

2016年12月に現在の「SDGs 実施指針」が策定されてからほぼ3年が経過し、指針改定の時期が到来しました。過去3年間でSDGsの認知度は大きく拡大し、また「地方創生」などの課題を中心に、政府、民間セクター、アカデミア等におけるSDGsへの取り組みも拡大しました。一方で、だれ一人取り残すことなく貧困をなくし、持続可能な社会・経済・環境の実現を目指すというSDGsの本質的な価値は必ずしも浸透したとは言えません。日本では、2018年の西日本を中心とする一連の大水害、2019年の台風15号や19号などによる東日本大水害をはじめ、災害の激甚化が進行し、地球温暖化と連動して「日本の持続可能性」が危機にさらされています。ジェンダー平等への歩みは遅く、貧困・格差も深刻な状況で、各地域の経済社会も疲弊が甚だしくなっています。世界的にも、本年のSDGサミットで採択された政治宣言は、貧困解消やジェンダー平等の目標の実現が危機にさらされていることや、飢餓や国内外の格差の拡大、生物多様性の喪失や災害リスクの増大など、2030年までのSDGsの達成がおぼつかない状況にあることに警鐘を鳴らしています。「SDGs 実現を本気で目指すのか、それとも形だけに終わらせるのか」…問われているのは、このことです。指針改定にあたっては、何よりも、世界の現実を前にした危機意識と、その危機を克服し、SDGs 達成を是が非でも実現するという政治的意思、および「誰一人取り残さない」というSDGsの根幹にもとづく政策こそが明記されなければなりません。

上記認識から、私たちは、改定「SDGs 実施指針」に以下の事項を盛り込むことを、強く要望します。

### 1. 貧困・格差およびジェンダー平等を優先課題に

SDGs 達成にかかる日本の危機を踏まえ、以下の課題について、高いレベルで優先課題として明記してください。

- (1) 貧困・格差の是正
- (2) ジェンダー平等、およびジェンダーに基づく差別の解消

SDGs は、「貧困をなくす」ことに最大の優先順位を置いていますが、11月11日に政府「SDGs 推進本部」が示した実施指針骨子案には「貧困の解消」「貧困・格差の是正」は全く示されていません。同骨子案の「現状の評価」では、ドイツのベルテルスマン財団等の報告書を引用する形で、日本のSDGsの取組のうち、SDG1（貧困）やSDG10（不平等）には課題があるとの指摘がなされています。そうであれば、「貧困・格差の是正」への取組に相対的に大きな優先順位が与えられるのが当然です。「ジェンダー平等」についても同様の指摘がある以上、これにも高い優先順位を設定すべきです。また、これに加え、日本の持続可能性の危機を象徴する課題である「防災・減災」および「地域経済・社会の活性化と環境の持続可能性の確保」にも高い順位が与えられるべきです。

### 2. 優先課題でのSDGs 達成に向けて、高い「2030年目標」の設定とギャップ分析に基づくロードマップの策定を軸とする「バックカスティング」の手法の導入を

優先課題への取り組みを加速し、2030年に国内外、特に日本国内で誰も取り残さないSDGsを達成できるよう、高い目標設定と細分化されたデータに基づく現状のベースライン評価、ギャップ分析に基づ

いたロードマップの策定、エビデンスベースの指標に基づく評価を軸とする「バックカスティング」の方法を採用することを明記してください。そのために、以下の事項を明記してください。

- (1) 優先課題に関して、日本政府の貧困の定義をまず確認したうえで、貧困・格差是正やジェンダー平等などを含む主要課題を設定し、SDGs のグローバル・ターゲット及び指標に従って、日本における 2030 年目標を設定する。
- (2) 上記目標に関して、細分化されたデータに基づき現状のベースラインを把握し、ギャップ分析を行って、これに基づくロードマップを策定する。そのためにも、グローバル指標に対応し、特に取り残されがちな対象（こども、障害者、高齢者、外国籍、LGBT など）別に細分化した統計の集計、整備、公表が出来る体制を早急に整える方針を形成する。
- (3) SDGs17 目標に関わる政府の政策策定においては、SDGs の考え方にに基づき、できる限り、「バックカスティング」の方法を組み入れる。

### **3. SDGs 達成に向けた日本の取組がわかる透明性の高い指針を**

政府は 2018 年以降「SDGs アクションプラン」を策定し、「ソサエティ 5.0」「地方創生」「女性・次世代のエンパワーメント」の三本柱を軸に取り組みを拡大してきました。しかし、11 日に発表された SDGs 実施指針骨子案では、三本柱に沿ってどのように政府の取り組みや他セクターとの協働を進め、政策の立案・実施・評価の枠組みを作ってきたのかが明確になっていません。日本の SDGs への取り組みを理解しようと指針を手取る国民・市民や海外の関係者にとって、本指針が日本の SDGs に関する「国家戦略」たるにふさわしい、首尾一貫した、高い透明性と説明責任が保証された文書であることは、きわめて重要です。このことを保証するために、以下の事項を明記してください。

- (1) 「SDGs アクションプラン」の位置づけと「指針」との関係について、上位の文書である「指針」の中で明示してください。
- (2) 今次の指針改定で、旧来の優先課題と紐づけられた、数値目標や重要達成度指標（KPI）を含む日本の各種政策をまとめた「付表」がなくなり、「アクションプラン」に置き換えられることに鑑み、「アクションプラン」のまとめ方を変え、各種政策における数値目標や KPI を含めて明示するようにしてください。
- (3) 過去 3 年間で発展した日本の SDGs に関する取り組みによって新たに設置された枠組み、会議体、組織・機構について、「付表」の形で取り纏めることにより、政策の一貫性を明示し、説明責任を明確にしてください。

### **4. マルチステークホルダープロセスによる立案・決定・実施・評価の実現を**

政府は「参画型」を SDGs の「実施原則」の一つとして重視しています。これを踏まえ、マルチステークホルダーの公的枠組みとして機能している「SDGs 推進円卓会議」の機能の拡大や代表性の強化を、より積極的に位置づける必要があります。これを実現するために、以下、明記をお願いします。

- (1) SDGs に関わる政府の主要な意思決定は、必ず SDGs 推進円卓会議での審議を経て行うようにしてください。
- (2) アクションプラン等、SDGs に関わる政府の戦略文書等を策定する場合は、事前に、SDGs 円卓会議に対して、守秘義務に配慮しつつ、検討に十分な情報を提供することを明記して下さい。
- (3) 国連の持続可能な開発プロセスが採用している「メジャーグループ」制度をヒントに、「誰一人取り残さない」マルチステークホルダー枠組みの拡大をお願いいたします。

以上